

科目名		建築設備施工 II			
担当教員		矢花 寧		実務授業の有無	有
対象学科	建築設備システム科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 座学→演習→レポート→添削指導を行うことにより、学習レベルを向上させる。 2. 建築設備技術者として、社会に出て即対応できるように基礎知識を身に付ける。 3. 公的資格を取得することを意識してもらい、そのために必要な事項を解説する。				
学習目標 (到達目標)	建築設備工事の受注から竣工に至るまでの工事の流れを理解して、各施工段階でのチェックポイントを理解する。社会へ出て実務として展開できるように、写真や図表を利用して解説する。主教材の他に、補助教材および配布プリントを利用して、用語の理解を深める。タイミングが合えば、現場見学を実施したい。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	1・建築設備工事の進め方 森村設計 著 (株)市ヶ谷出版社 2・図解2級管工事施工管理技士試験合格必勝ガイド新訂第2版 彰国社				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	設備工事の仕組み		方法: 教材及び配布資料を使用して建築設備工事の仕組みを理解する。 準備学習: テキストの予習をする。		
2	施工着手前		方法: 教材及び補助教材を使用して工事着手前の現場作業を理解する。 準備学習: テキストの予習をする。		
3	躯体工事		方法: 教材と補助資料を使用して躯体(RC及びS造)に関する設備工事の特徴と重要事項を解説し理解を深める。 準備学習: テキストの予習をする。		
4	配管工事		方法: 教材及びプリント資料を使用して配管工事の特徴と要点を理解する。 準備学習: テキストの予習をする。		
5	ダクト工事 中間試験		方法: 教材を使用してダクト工事の特徴と要点を解説する。 準備学習: テキストの予習をする。 これまでに学習したことの確認試験。		
6	配管・配線工事		方法: 教材を使用して配管配線工事の特徴と要点を解説する。 準備学習: テキストの予習をする。		
7	主要機器工事		方法: 教材と施行事例写真を利用して、機器名を理解する。 準備学習: テキストの予習をする。		
8	仕上げ工事		方法: 教材と実例写真を利用して仕上げ工事の種類を理解する。 準備学習: テキストの予習をする。		
9	外構屋外工事		方法: 教材と図面を利用して、外構・インフラ接続を理解する。 準備学習: テキストの予習をする。		
10	試運転調整 竣工 期末試験		方法: 教材を使用して設備工事の試運転ちょうせいの重要性を理解し、竣工検査書類を説明する。 これまでに学習したことの最終試験。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
	%	%	評価テスト 80 %	取組姿勢 20 %	重要事項は繰り返し学ぶように指導する。 設備工事の事例を取り入れて、設備用語を確実に理解する。 設備業界で生きていくために公的資格を取得するための演習問題を沢山勉強する。 公共工事・民間工事を問わず記録に残す癖をつける為にノートをしっかり取る。
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		一級建築士として30年以上、設備設計1級建築士として8年以上ゼネコンにて勤務した。			